

不動七重の滝

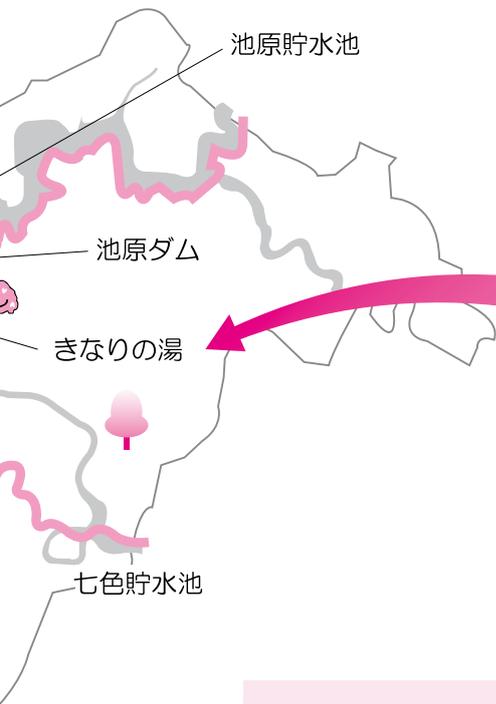
不動七重の滝は、「日本の滝100選」にもその名を連ねる大峯きっての名瀑と言われ、下北山村の北の玄関口「前鬼橋」から村道を約6kmほど進んだところにあります。

滝は七段で落差100m、水量豊かな前鬼川の流れが、水飛沫を上げながら滝壺に落ちゆく姿は正に絶景で、水面のエメラルドブルーと滝の白のコントラストが非常に美しく、訪れる者の目を奪い足を止めます。

林道の展望台からは七重の滝の全望が見渡せます。また、遊歩道もあり、迫力のある滝を眼前で楽しむこともできます。



下北山村は奈良県の南東部に位置し、南部は和歌山県北山村、東南部は三重県に隣接し、西側には世界遺産に登録された紀伊山地の霊場と参詣道「大峰奥駈道」が縦走しています。村内の大部分が吉野熊野国立公園にも指定され、手つかずの自然が溢れる緑豊かな村です。もともと紀伊国に属しその北部の山里であることから北山郷と呼ばれ上組、下組に分かれていました。明治22年の市町村制の実施とともに上組は上北山村、下組は下北山村となりました。



きなりの湯

日帰り温泉として人気の高い下北山温泉「きなりの湯」。「きなり」とは日本独特の価値意識で、混ざり気のない純粹という意味です。泉質はナトリウム炭酸水素塩泉で、肌に優しい美人の湯として知られています。入浴後には肌がつるつる、すべすべとなり、特に女性の方々には高評価をいただいております。

隣接する「きなり館」には、囲炉裏の雰囲気を生かした食事処きなり亭や90畳の大広間があり、ゆったりと食事や休憩に利用することができます。



きなりの郷冬物語(イルミネーションコンテスト)

年末年始にかけて、村の観光拠点となるスポーツ公園の玄関口一帯をイルミネーションで飾り、村の新たな魅力を発見してもらうイベント。イルミネーションコンテストは個人作品の作品展による創意工夫をこらしたもので、毎年テーマに沿った作品が展示されます。色とりどりのイルミネーションで飾られたスポーツ公園は「きなりの湯」の冬の風物詩になりつつあります。



至 北山村

前鬼「小仲坊」

1300年以上もの歴史がある前鬼は、世界遺産登録された紀伊山地の霊場と参詣道の大峰奥駈修行の第29番の行場で宿泊地にもなっており、修験道の開祖である役の行者に従事した二鬼の前鬼・後鬼によって守護してきたとされる聖地です。

前鬼・後鬼の5人の子孫(五鬼熊・行者坊、五鬼継・森本坊、五鬼上・中之坊、五鬼助・小仲坊、五鬼童・不動坊)は各々の宿坊を建て自給自足の生活をしながら、修験者の世話をし自身も修行を続けてきました。しかし、時代の流れとともに相次いで前鬼を去り、現在ではここ小仲坊だけが宿坊を続けています。

このように大峯・奥駈道登山の入口となるこの場所は古くからさまざまな言い伝えがある歴史の地です。また、奈良県の文化財指定を受けている桁の巨樹群生地がこの地にあり秋になると多くの実を付けます。



大和野菜「下北春まな」

奈良のブランド「大和野菜」にも選定されている下北春まな。下北山村で古くから自家野菜として栽培されてきた漬け菜で、この地域の気候でしか栽培できないと言われており、大和真菜とは同じ種でも全く違う味になってしまうそうです。大ぶりの丸い葉は厳しい冬の昼と夜の寒暖により、葉肉の厚い独特の風味を醸し出し、いっそう美味しくなり、ご飯を包み「真菜めはり」にするなど山仕事のご馳走として親しまれてきました。

商品開発された「春まな漬」(浅漬)は冷凍保存されており、冷蔵庫に入れておくと一年中緑が鮮やかなままで美味しく召し上がっていただけます。

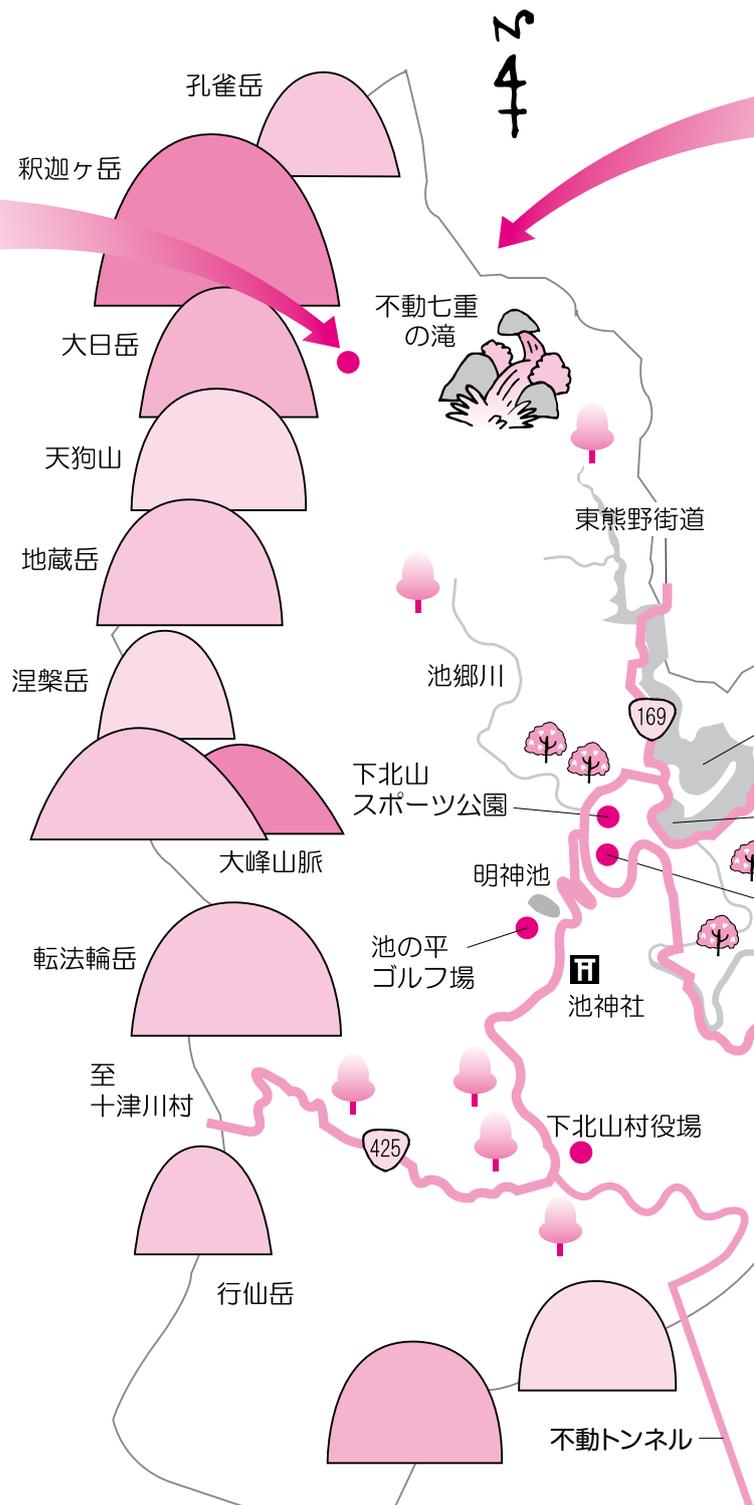


料理法：めはり(ご飯を葉でくるんだおにぎり)、漬物、味噌和え、すき焼き



下北山村役場

<http://www.vill.shimokitayama.nara.jp/>
産業・建設課 TEL 07468-6-0016



さくら祭り

桜の開花に合わせて毎年4月初旬に開催する下北山村で一番のイベント。会場はスポーツ公園のイベントステージ周辺。地域の特産品、近隣の市町村からの出店が立ち並び、芸能演奏などのステージアトラクションが多くの観光客を楽しませます。

